



株式会社 横河ブリッジホールディングス

株 主 通 信

2023年6月

YBHD NEWS No.65

- 第159回 定時株主総会決議ご通知
- 第159期 事業報告書



証券コード:5911



代表取締役社長 高田 和彦

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第159期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)事業年度が終了いたしましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。

第6次中期経営計画(2022年度から2024年度まで)初年度となる前期の業績につきましては、売上高は2018年3月期からの横這い状況を脱し、初めて1,600億円を超えることとなり、5年ぶりに増収増益とすることができました。

今期は第6次中期経営計画の2年目となります。

橋梁事業につきましては、手持ち工事の進捗により売上高が1,000億円近くまで拡大する見込みであり、受注高につきましても800億円台が2年続きましたが、今期は、保全事業での受注増を想定しており、900億円台を目指してまいります。

システム建築事業につきましては、下半期からの需要回復を想定しており、売上高は横這いとなりますが、受注につきましては、サプライチェーンの国内回帰と物流業界の2024年問題で高まる工場・倉庫の需要をしっかりと取り込むことに加え、店舗・事務所など工場・倉庫以外への市場への展開を進め、100億円の増加を目指してまいります。

その結果、全体の売上高と受注高はほぼ同額の約1,760億円となり、これにより第6次中期経営計画最終年度の目標売上高1,870億円の達成が見えてくることとなります。

資本政策と株主還元については、第6次中期経営計画において、30%以上の配当性向ならびに増配基調の維持、さらに自己株式の適宜取得により株主還元を拡大し、ROEを維持向上させることを方針として掲げております。前期は10円の増配と10億円の自己株式取得を実施いたしました。今期もこの方針を継続し、増配を目指してまいります。

また、市場評価に関する課題につきましても、現状を分析・評価し、投資家の皆様との積極的な対話を踏まえながら、株主還元をはじめ、第6次中期経営計画で掲げております経営基盤戦略や事業戦略に取り組み、持続的な成長の土台作りと業績目標を達成していくことにより、市場評価の向上を目指してまいりたいと存じます。

当社グループは、現場工事の安全確保ならびにコンプライアンスの確保を最優先事項として引き続き取り組んでまいります。今後も良質で安全な社会インフラの整備等を通じて社会に貢献するため、一丸となって努力してまいりますので、倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

第159回定時株主総会決議ご通知

2023年6月28日開催の当社第159回定時株主総会におきまして、以下のとおり報告ならびに決議されましたのでご報告申し上げます。

報告事項

1. 第159期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。

2. 第159期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)計算書類報告の件

本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案

剰余金の配当の件

本件は、原案どおり承認可決されました。(期末配当金は1株につき45円と決定いたしました。)

第2号議案

取締役9名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、取締役に高田和彦、宮本英典、小林明、吉田昭仁、栗原一也、黒本和憲、天野玲子の7氏が再選され、中村謙、神野秀磨の2氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
なお、黒本和憲、天野玲子、神野秀磨の3氏は、社外取締役であります。

第3号議案

監査役2名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、監査役に廣川亮吾氏が再選され、尾崎聖治氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
なお、尾崎聖治氏は、社外監査役であります。

第4号議案

取締役に対する年次賞与制度の一部変更の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

第5号議案

取締役に対する株式報酬制度の一部変更の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

以上

本総会終了後開催いたしました取締役会において、次のとおり代表取締役が選定され、就任いたしました。

代表取締役
取締役社長 高田 和彦 (重任)

また、同じく監査役会において、廣川亮吾、大島輝彦の2氏が常勤監査役に選定され、それぞれ就任いたしました。

当期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の業績につきましては、売上高は1,649億6千万円(前期比280億3千万円増)と大幅に伸長し、2018年3月期からの横這い状況を脱し過去最高を更新しました。

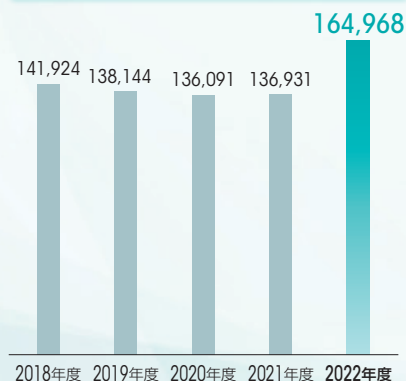
また営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益もそれぞれ増益となりました。

来期の見通しとしましては、橋梁事業は豊富な受注残に支えられ引き続き拡大する見込みです。システム建築事業につきましては、売上は横這いとなりますが、増益を見込んでおります。

全体の通期の業績は、売上高は過去最高の更新を目指してまいります。

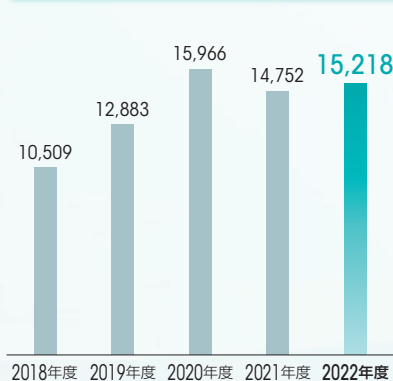
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



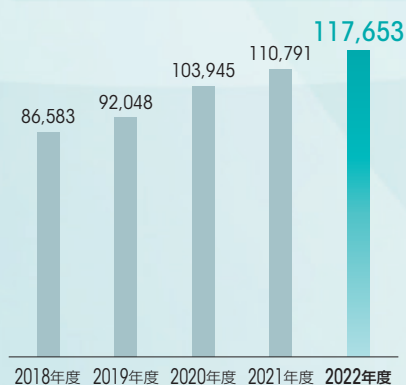
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



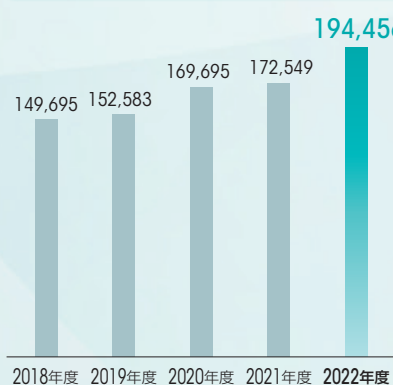
純資産

(単位:百万円)



総資産

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前 期 2022年3月31日現在	当 期 2023年3月31日現在
資産の部		
流動資産	109,363	133,354
固定資産	63,186	61,101
有形固定資産	39,456	38,607
無形固定資産	2,145	2,454
投資その他の資産	21,583	20,040
資産合計	172,549	194,456
負債の部		
流動負債	45,914	50,660
固定負債	15,843	26,143
負債合計	61,758	76,803
純資産の部		
株主資本	103,351	110,491
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,299	9,150
利益剰余金	87,488	94,371
自己株式	△ 3,872	△ 2,465
その他の包括利益累計額	4,432	3,809
非支配株主持分	3,007	3,352
純資産合計	110,791	117,653
負債純資産合計	172,549	194,456

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前 期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	当 期 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
売上高	136,931	164,968
売上原価	112,743	139,496
売上総利益	24,188	25,472
販売費及び一般管理費	9,435	10,254
営業利益	14,752	15,218
営業外収益	575	563
営業外費用	332	329
経常利益	14,995	15,452
特別利益	1,312	1,144
特別損失	38	69
税金等調整前当期純利益	16,269	16,527
法人税、住民税及び事業税	4,899	4,816
法人税等調整額	63	46
当期純利益	11,306	11,665
非支配株主に帰属する当期純利益	262	421
親会社株主に帰属する当期純利益	11,043	11,243

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

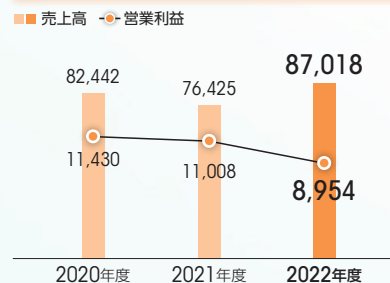
	前 期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	当 期 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,074	△ 4,350
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,474	△ 1,844
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,779	7,850
現金及び現金同等物に係る換算差額	45	28
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,866	1,684
現金及び現金同等物の期首残高	19,592	23,458
現金及び現金同等物の期末残高	23,458	25,143

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

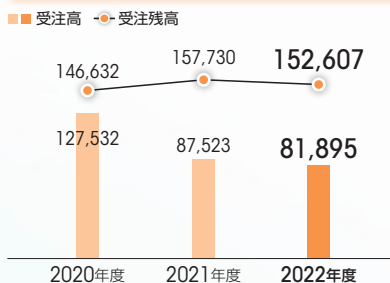
橋梁事業



売上高／営業利益 (単位:百万円)



受注高／受注残高 (単位:百万円)

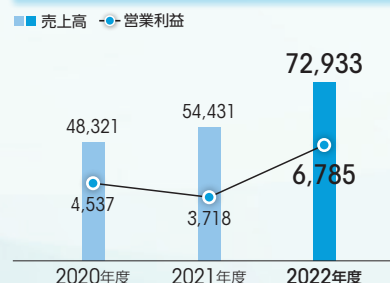


- 国内橋梁事業は、発注計画の後ろ倒しにより新設橋梁の発注量が伸び悩み、大型保全工事も発注の端境期のために低調となりましたが、高速道路の4車線化をはじめとする大型の新設橋梁の好調な受注により、受注高は前期を下回ったものの、年度計画は達成いたしました。業績につきましては、売上高は過去最高となりました。営業利益は設計変更の多かった前期を下回りましたものの、年度計画をほぼ達成いたしました。
- 来期の業績は、売上高980億円、営業利益97億円と予想しております。

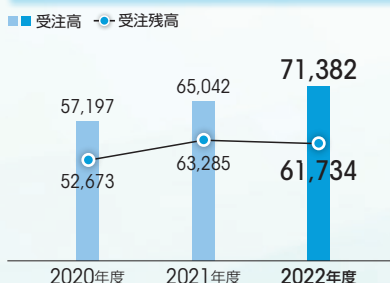
エンジニアリング関連事業



売上高／営業利益 (単位:百万円)

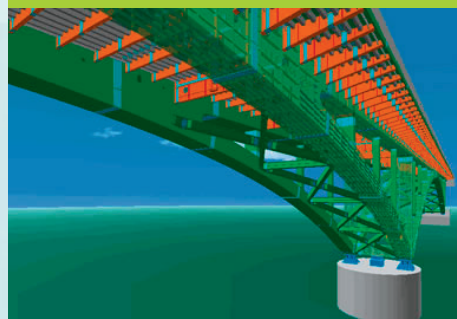


受注高／受注残高 (単位:百万円)



- システム建築事業の受注は建設コスト上昇等による計画の延期や見直しの動きが散見されましたが、価格見直しの効果により、受注金額は過去最高を更新することができました。また、通期の事業全体の受注高も過去最高を更新いたしました。業績につきましては、システム建築事業において高騰した鋼材価格を反映した案件の生産が進み、損益が改善したことに加え、土木関連事業においても生産が回復したことにより、通期の事業全体の売上高および営業利益は過去最高をそれぞれ大幅に更新いたしました。
- 来期の業績は、売上高720億円、営業利益71億円と予想しております。

先端技術事業



売上高／営業利益 (単位:百万円)



受注高／受注残高 (単位:百万円)



- 精密機器製造事業の受注が伸び悩み、受注高、売上高、営業利益はいずれも前期を下回りました。
- 来期の業績は、売上高52億円、営業利益4億円と予想しております。

おぎつるばし
沖鶴橋

～球磨川災害復旧事業への取り組み～ YBC



建設グラフ2021.10.24「寄稿/九州地方整備局 八代復興事務所長 徳田浩一郎」より



たわみ処理機



完成予想3Dモデル

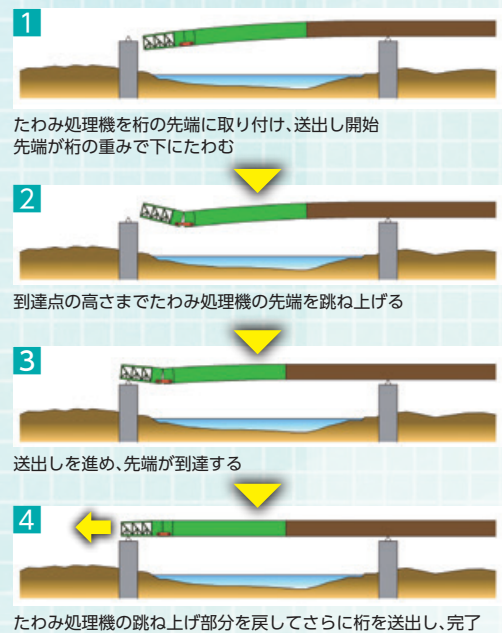
株式会社横河ブリッジは、国土交通省九州地方整備局による災害復旧事業の一環である球磨村道沖鶴線 沖鶴橋上部工工事を受注しました。

2020年7月3日から4日にかけて熊本県を襲った豪雨により、球磨川流域では甚大な災害が発生し、多くの橋が流失しました。そのひとつである沖鶴橋は、1983年の架設当時は4径間のプレストレスト・コンクリート(PC)橋でしたが、今回の工事では、早期復旧を図るために河川内の橋脚数を減らして2径間とします。また復旧にあたり、沖鶴橋兩岸の高さは変えず、かつ、球磨川の水位上昇に備えて桁下の高さを確保するという条件がありました。これらの課題を解決するために、橋梁形式はPC橋よりも桁の厚みを抑えられる鋼床版桁橋が採用されました。

沖鶴橋の架設は、河川内での作業が不要な「送出し架設工法」で施工します。橋脚数を減らした分、支間長が89.8mと長く、送出し時には桁にたわみの影響が生じますが、当社が特許を所有する「たわみ処理機」を使用することで、短時間で安全な架設を実現させます。

球磨川流域の三ヶ浦地域では、沖鶴橋の流失により生活路線が遮断されています。そのため、長距離の迂回路を使用しなければならず、早期の沖鶴橋復旧が待ち望まれています。この期待に応えるべく、当社が持つ技術を最大限に活用し、社会公共への貢献を果たしてまいります。

たわみ処理機を用いた送出し工法の架設手順



えとおおはし
宮崎県 干支大橋 耐震補強工事が竣工 YNSE

1994年に株式会社横河ブリッジ他共同企業体(JV)が建設した干支大橋について、株式会社横河NSエンジニアリング他JVが耐震補強工事を実施いたしました。

干支大橋は宮崎県延岡市北方町に位置しています。1994年の建設以前は、往来のために五ヶ瀬川沿いの国道旧218号を利用して延岡市から高千穂を経て熊本市方面へ往來していましたが、本橋の完成によって五ヶ瀬川を跨ぐ通行がより便利になりました。支間長は275mであり、建設当時は国内最大級の中路式ブレースドリブアーチ橋でした。

建設から約30年が経過し、交通量の増加や大型車両の荷重、頻発する地震に対する基準の改定に対応すべく、大規模な耐震補強工事を行い、2022年に無事竣工いたしました。

今回の耐震補強工事では、これまで固定していた箇所を可動式とし、地震の揺れを逃がすことができるようにするなど耐震性能を高めた構造に変更いたしました。さらに、これにより床版



座屈拘束ブレース設置



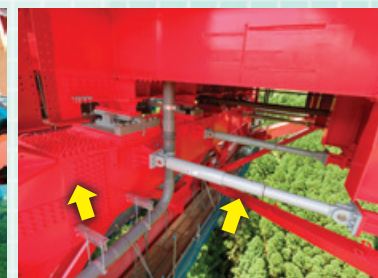
干支大橋全景

下のアーチ部の補強部材の簡略化も可能となりました。また、施工にあたっては通行規制を行わずに進めましたが、通行規制なしでこのような構造変更を行うというのは国内初の試みであり、この経験と実績は今後の鋼橋長寿命化対策事業に活かしていけると考えております。

これからも、YBHDグループ一丸となって「橋守り」を続けてまいります。



横梁を補強、粘性ダンパー設置



横梁を追加、粘性ダンパー設置

取締役

なかむら **中村** ゆずる **譲**
 取締役執行役員
 調達室担当 安全・品質管理全般

略 歴
 1984年4月 横河工事株式会社入社
 2012年6月 同社取締役東京建設本部副部長兼土木工事部長
 2015年10月 株式会社横河ブリッジ取締役橋梁工事本部副部長
 2018年4月 同社取締役東京工事本部長
 2019年6月 同社常務取締役東京工事本部長
 2020年6月 同社取締役常務執行役員東京工事本部長
 2022年4月 同社執行役員
 株式会社横河ブリッジ取締役副社長執行役員
 東京工事本部長兼海外事業部長(現任)
 2023年6月 同社取締役執行役員(現任)



じんの **神野** ひでま **秀磨**
 社外取締役

略 歴
 1985年4月 住友海上火災保険株式会社
 (現 三井住友海上火災保険株式会社)入社
 2015年4月 MS&ADインシュアランスグループホールディングス
 株式会社執行役員リスク管理部長
 2019年4月 同社執行役員
 2019年6月 同社常勤監査役
 2023年6月 当社社外取締役(現任)



おさき **尾崎** しょうじ **聖治**
 社外監査役

略 歴
 1979年4月 サッポロビール株式会社入社
 2005年3月 同社ワイン洋酒事業部長兼サッポロワイン株式会社取締役
 2006年3月 兼 株式会社恵比寿ワイン代表取締役社長
 2010年3月 同社執行役員東海北陸本部長
 2012年3月 サッポロ飲料株式会社常勤監査役
 兼 サッポロビール株式会社監査役
 兼 サッポログループマネジメント株式会社監査役
 2013年3月 兼 サッポロインターナショナル株式会社監査役
 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社常勤監査役
 サッポロホールディングス株式会社常勤監査役
 2015年3月 応用地質株式会社社外取締役(現任)
 2019年3月 ハルナビバレッジ株式会社社外監査役(現任)
 2020年6月 当社社外監査役(現任)
 2023年6月



執行役員

ゆかわ **湯川** まさゆき **雅之**
 執行役員
 企画室長

略 歴
 1989年4月 住友金属工業株式会社(現 日本製鉄株式会社)入社
 2018年6月 株式会社横河住金ブリッジ取締役東京営業部・大阪営業部・
 鉄構エンジニアリング技術部・セグメント技術部担当
 2020年6月 同社執行役員監査室長・総務部・設計部・
 鉄構エンジニアリング技術部・セグメント技術部担当
 2021年10月 同社執行役員監査室・総務部・企画管理部・地下空間技術部担当
 2022年6月 同社取締役常務執行役員監査室・総務部・企画管理部・地下空間技術部担当
 2023年4月 当社執行役員(現任)
 株式会社横河NSエンジニアリング取締役常務執行役員監査室・
 総務部・企画管理部担当(現任)

会社概要

社 名 株式会社横河ブリッジホールディングス
 所 在 地 〒108-0023
 東京都港区芝浦四丁目4番44号
 TEL:03-3453-4111(代表)
 資 本 金 9,435百万円
 主 な 機 能 経営戦略、法務・監査、経理・財務
 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧 (2023年6月28日現在)

- 代表取締役社長 高田 和彦
- 取締役常務執行役員 宮本 英典
- 取締役常務執行役員 小林 明
- 取締役執行役員 吉田 昭仁
- 取締役執行役員 栗原 一也
- 取締役執行役員 中村 譲
- 取 締 役 黒本 和憲 (社外取締役)
- 取 締 役 天野 玲子 (社外取締役)
- 取 締 役 神野 秀磨 (社外取締役)
- 常 勤 監 査 役 廣川 亮吾
- 常 勤 監 査 役 大島 輝彦
- 監 査 役 志々目昌史 (社外監査役)
- 監 査 役 吉川 智三 (社外監査役)
- 監 査 役 尾崎 聖治 (社外監査役)
- 専務執行役員 高木 清次
- 執行役員 梶 宏人
- 執行役員 湯川 雅之

株式の状況

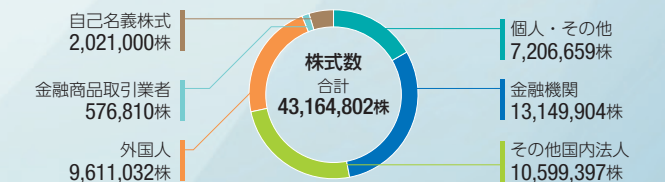
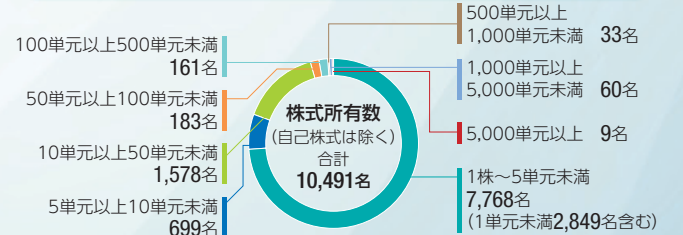
発行可能株式総数 180,000,000株
 発行済株式総数 43,164,802株
 株主数 10,492名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	6,089	14.80
(株)日本カストディ銀行(信託口)	4,019	9.77
日本製鉄(株)	1,987	4.83
横河電機(株)	1,676	4.07
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	851	2.06
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	700	1.70
住友不動産(株)	674	1.63
日本生命保険相互会社	543	1.32
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS SEC LENDING	518	1.25
(株)みずほ銀行	445	1.08

(注) 1. 当社は、自己株式を2,021,000株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	https://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真 株式会社横河システム建築 茂原事業所

2022年11月、当社グループの株式会社横河システム建築 茂原事業所に太陽光発電設備を設置しました。太陽光パネルは、写真左手の事業所棟・厚生棟と、右手の塗装・出荷ヤードの屋根に取り付けています。月平均約4万kWhの節電が可能であり、SDGsの目標「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」への貢献を果たします。停電時に機能する蓄電池システム、電気自動車への充電・電気自動車から建物への電力供給ができるEV充電器も備えており、災害時の電力不足にも対処することができます。

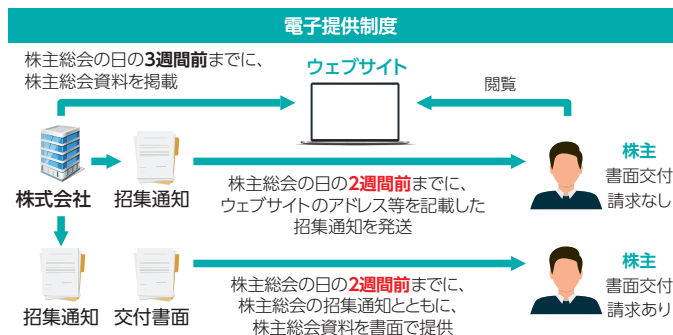
所在地：千葉県茂原市にはいる工業団地

- 太陽光発電出力：モジュール450W×2,566枚=1154.7kW
- 電気自動車充電電連系システム対応

電子提供措置について

改正会社法(2022年9月1日施行)により、株主総会資料の電子提供制度が創設されました。株主様が一定事項を記載した株主総会資料を書面で受領することをご希望の場合は、株主総会の基準日までに、お取引のある証券会社または株主名簿管理人を通じて書面交付請求のお手続きが必要となります。

当社では、2023年6月開催の定時株主総会から電子提供制度が適用されておりますが、同株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、議決権を有する株主様に同一の株主総会資料を送付いたしました。



株式会社 横河フリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <https://www.ybhd.co.jp/>

